



秋田県立 比内支援学校 教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

【学校の現状】

- 在籍数は、小学部29名、中学部39名、高等部58名、総計126名である。前年度と比較すると12名の増となり、開校以来最大の児童生徒数である。寄宿舎生は42名であり、利用ニーズは高い。児童生徒の実態は重複・多様化の傾向にある（児童生徒の約5%が肢体不自由を併せ有している）。
- 恵まれた自然環境や理解ある地域との関係を活かした教育課程を編成し、学校と地域が共に育つ活動実践や感謝される体験を通して、児童生徒の「本物の力」を育てている。併せて、新学習指導要領に基づき、授業改善に取り組んでいる。
- 地域の学校との交流及び共同学習や、高等学校特別支援隊をはじめとしたセンター的機能の活動を継続実施し、本校に対する理解推進と地域の特別支援教育の充実を図っている。平成28年度に改称した学校後援会は、様々な活動で教育の振興と充実に寄与している。
- 新校舎が完成し、令和2年1月から使用している。昨年度体育館が完成し、11月には食堂・寄宿舎が完成する予定である。

【課題】

- 伝統ある教育活動を一層充実させるために、常にチャレンジある学習活動を展開するよう工夫・改善する必要がある。
- 児童生徒の情緒の安定を基盤に、障害特性に配慮し一人一人に応じた指導・支援を充実させる必要がある（自立活動の改善・充実、ICTの効果的活用）。
- 農園や新校舎の機能及び地域の特色を生かし、6次産業化や作業学習製品の品質向上を図る必要がある。また、学部間及び地域との連携による早期からの職業教育の充実により、生徒の進路実現を図りたい（就職率60%、希望進路100%の達成）。
- 校舎改築基本構想を踏まえ、地域交流室等をはじめとした新校舎の機能を十分活用した教育活動を展開する必要がある。

【学校を取り巻く将来の状況の予測】

- 本校児童生徒に係る障害の重度・重複化や多様化への対応と、個に応じた指導の充実及び指導力の保持・向上が一層求められる。
- 新校舎の機能を活かした教育活動や、地域交流室を起点とした地域コミュニティとの交流、寄宿舎の自立支援機能の整備など、保護者及び地域の期待が高まる。
- 食品加工室を活用した農作物等の6次産業化、外部講師や地域連携による学校特産品の開発・製作・販売等により、教育課程の改善・充実が図られ、児童生徒数が保持される。
- 地域（大館市）の特別支援教育に対する理解は進み、ニーズも顕在化している。教育委員会や関係機関、小・中学校・高校・大学との良好な関係を保ちつつ、特別支援学級担任等の人材育成や各校校内委員会の充実などの課題解決に向けたセンター的機能の工夫が求められる。

II 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

【目指す方向性・学校像】

- 「地域と共に育ち、地域に感謝される教育活動を推進する学校」を目指し、地域との連携や活動を通して、児童生徒の「本物の力」を育てる。
- 「一人一人の思いや願いに応え、積極的に自立と社会参加を目指す学校」を推進し、授業改善を図りながら、社会に参加する力を育む教育活動を展開する。

【目指す児童生徒の姿】

- 健康・・・心身ともに健康になろうと努力する子ども
- 誠実・・・喜びをもって精一杯努力する子ども
- 自立・・・自分のことは自分の力で成し遂げようと努力する子ども

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

具体的な目標・取組	推進指標
<p>「地域を支え、地域に感謝される」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域との共催行事、地域行事への参画 ○ボランティア活動（除雪、清掃、防災等）の継続 ○学校後援会、PTAとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加と地域共催行事、防災訓練の実施 ・木育等、地域活動への参画 ・ボランティア活動の継続実施 ・新校舎を活用した交流の実施と学校及び教育活動の理解推進 ・地域理解推進に係る学校後援会、PTAとの連携
<p>「社会参加につながる特色ある教育課程」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本物の力・生きる力につながる学び ○学校特産品の開発、製作、販売（6次産業化と外部講師、高等学校との連携） ○交流及び共同学習の質・量の向上 ○希望する全児童生徒の居住地校交流実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統ある教育活動の一層の充実を図るチャレンジある企画・工夫・改善 ・新学習指導要領に基づいた社会に開かれた教育課程と授業改善 ・農場、新校舎、地域連携による「本物の力」を育む教育活動の実施 ・学校特産品の開発又は品質向上 ・希望する小・中学部児童生徒の居住地校交流の実施率100%
<p>「児童生徒が社会に参加する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○希望者の就職率100% ○希望する福祉サービス利用の実現 ○自分のよさを生かし、社会に貢献する ○長所が生きる事業所を開拓する ○自分から行動し、周りの人と一緒に楽しんで活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部間や地域連携による早期からの職業教育の改善・充実 ・高等部卒業予定者のうち6割の就職 ・希望する生徒全員の就職決定 ・前年度卒業生90%の職場定着 ・希望する全員の福祉サービスの利用 ・自立活動の改善・充実とICT機器活用による授業改善
<p>「就学、地域の学校を支える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大館市内全幼保・小・中との連携（日常的な職員派遣による支援と教育相談、研修会の実施） ○高等学校特別支援隊の充実（県北地区高等学校校への派遣継続、支援機関と連携した就労支援、研修会の実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市関係機関との連携強化と自校解決力を促す計画的、継続的な支援 ・教育専門監、センター的機能による全幼保・小・中・高への支援 ・ニーズに応じた保護者研修の実施 ・特別支援学級担任の研修の機会の提供 ・事務局校としての高等学校支援の充実
<p>「専門性を高める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合わせた指導を中核にした授業研究推進 ○大学・医療・福祉・行政機関との連携 ○地域人材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施と要点の共有・活用 ・外部専門家の活用とノウハウ共有 ・公開研究会開催（12月7日） ・各学校（市教委）との合同研修会
<p>「校舎改築事業」 「その他」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新食堂・寄宿舎の完成、使用開始 ・感染症予防対策の徹底